

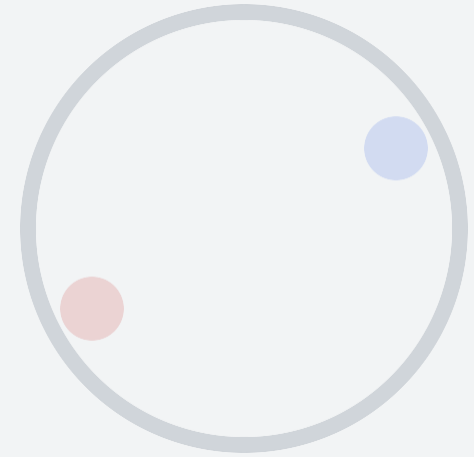
2

造化定地観の自生的近代性

Indigenous Modernity of the Johwajeong View of Earth

目次

- 1 研究の背景および目的
- 2 西洋の質料的地観
- 3 東洋の応縮的地観
- 4 東西洋地観の衝突
- 5 天地関係の相克化
- 6 東学思想の造化定の地観
- 7 結論および意義



| 研究の背景および目的

研究の必要性

- 東西の地観(地観)への比較哲学的アプローチの不在
- 西欧中心の近代性言説から脱した自生的近代性の模索が必要
- 東学思想の造化定地観が持つ現代的意義の再照明

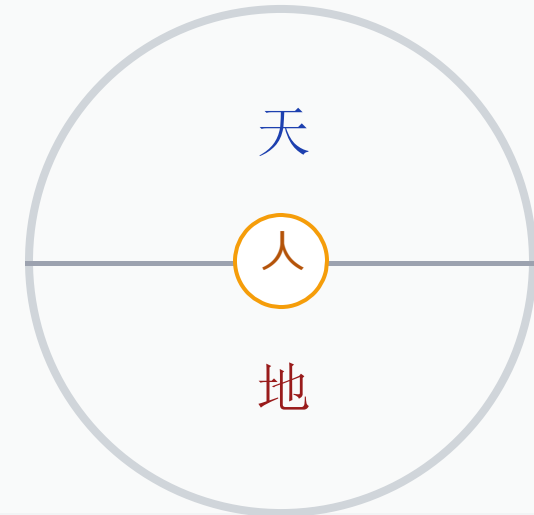
「地観(地観)」概念の概要

- 西洋:質料的(質料的)地観－超越的形相が実現される質料としての
- 東洋:凝縮的(凝縮的)地観－天地の気を形体と器として実現する存在

研究目的

- 東西地観の哲学的構造と衝突様相の分析
- 核心的問い東西の地観がいかに衝突し、東学思想の造化定地観はこれをいかに克服して自生的近代性を形成したのか?
- 天地関係の相克化過程とその近代的意味の考察

東学思想の造化定の地観に現れたリミナリティと自生的近代性の解明



西洋の質料的地観

超越天(天外天)中心の西洋自然観

- 超越天に応じてイデア、唯一神、唯物論的理性へと地観が変
- 化地は形相が実現される質料的存在と見なされる

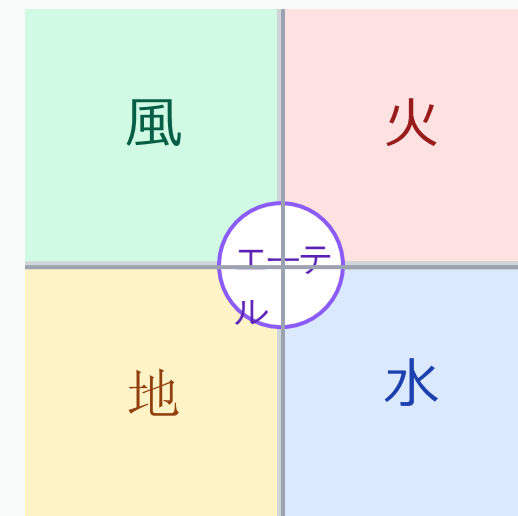
アリストテレスの四元素説(地水火風)

- タレスからエンペドクレスへと続く四元素説の発展
- 西洋の地水火風:「実体」からなる相関的思惟(東洋の陰陽五行との差異)
- 第五元素(エーテル)と四元素の均衡体系

実体論的、原子論的世界観

- 物質文明の発展に寄与したが、神明体系の崩壊と自然支配へと転落
- **核心:西洋の質料的地観は超越天に由来する形相が実現される場所として地を見る観点であり、近代物質文明の発展に寄与したが、人間-自然の関係を支配-被支配関係へと転落させた。**
- 近代原子論的世界観:自然を分析・支配の対象へ転換

インド・ヨーロッパの三機能体系と天観・地観・人間観の構造的連関



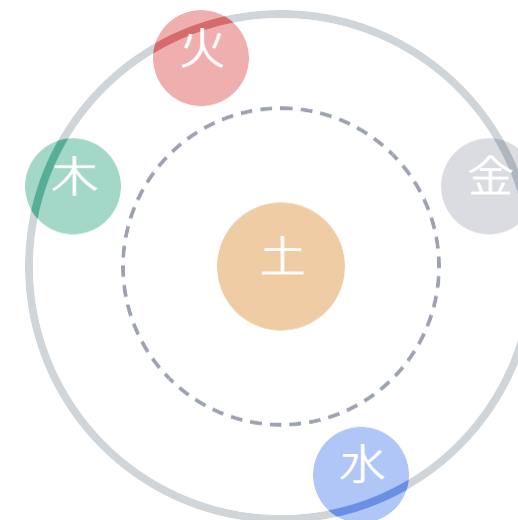
東洋の凝縮的地観

内在天および天地神明中心の地観

- 天(天)と地(地)が相互作用する内在的世界観
- 地は天地の気を「凝縮」して形体と器として実現
- 『易伝(易傳)』:「至れるかな坤元よ!万物は坤元に基づいて生ずる」

相関的属性的世界観

- 陰陽五行:西洋とは異なり「属性」を強調、「実体」より「関係」を重視
- 三才(天地人):天・地・人を独立的存在ではなく相互影響の構成体として理解
- 五行の相生(相生)作用を通じた調和的宇宙観の形成



陰陽五行の相生関係

空間の属性と意味

- 風水地理:地を崇拜と調和の対象と見なす
- 核心:東洋の地観は地を西洋のような質料的対象ではなく、天と相互作用しつつ万物を生成する凝縮的存在として把握する。
- 天円地方(天圓地方):天の時間性と地の空間性の調和
- 三数分化:万物を天地人という三つの構成物として見る複雑系的フラクタル構造

「東洋の凝縮的地観では地は道具や支配の対象ではない」

東西洋地観の衝突

マテオ・リッチの『天主実義』と世界観的衝突

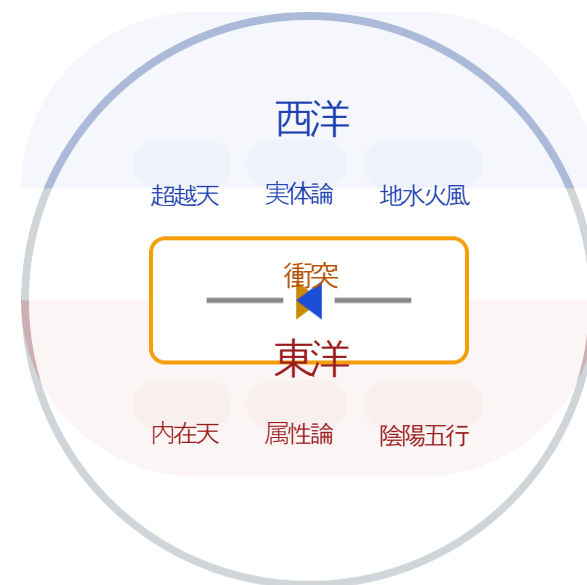
- 超越的天観と質料的地観が東洋の凝縮的地観に衝突陰陽
- 五行とアリストテレスの四元素説(地水火風)の論争
- 東洋理気論と西洋存在論の哲学的対立

帝国主義と物質的衝突

- 水雲の東学創道の頃、北京条約(1860)など西洋の侵略
- 魯迅の『阿Q正伝』に描かれた精神分裂的衝突
- 『龍潭遺詞』に記録された西欧列強の侵略と東洋人の危機意識

近代性の問題

- 西洋:東洋思想の受容以降、科学技術の発展、第五元素哲学の変質
- 重要時点マテオ・リッチの『天主実義』(17世紀初)→哲学的衝突→北京条約(1860)→物質的衝突→東学創道(1860)→自生的近代性の模索
- 東洋:超越天の排除、天地関係の固着化と相克的变化
- 自生的近代性の必要性の台頭(西欧模倣ではなく独自の発展)



Ⅰ 天地関係の相克化(相克化)

西洋天地関係の相克化

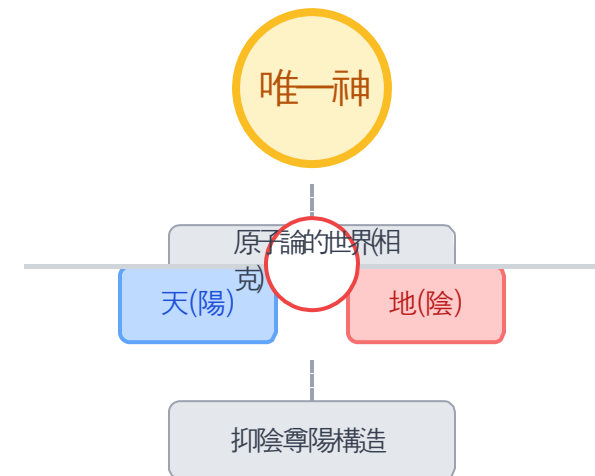
- 唯一神と万物の二元的対立構造の深化(地水火風の相)
- 関性の消滅、原子論的世界観への転換
- 第五元素の超越化(物質と財利(財利))に代替された理性

東洋天地関係の相克化

- 「天尊地卑(天尊地卑)」形式的均衡から階層的秩序へ
- 「抑陰尊陽(抑陰尊陽)」陰陽の不均衡的地位の固着化
- 土(土)の内在化:上帝概念の忘却と至尊の祈福化

天地関係の危機

- 絶地通天(絶地通天):天と地の関係の断絶
 - 核心・東西洋の相克化した天地関係は近代の危機の本質的背景となり、これはリミナリティの喪失と超越性・内在性の断絶に由来する。
 - 人間と自然の対立:支配と征服、生態的反撃
- 近代的地観の悲劇・調和の喪失と相生の危機



東学思想の造化定(造化定)の地観

思想的融合と自生性

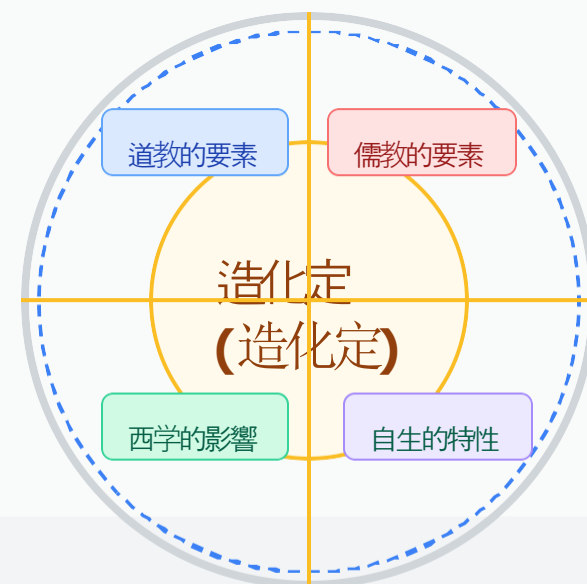
- 道教・儒教・西学の要素を批判的に受容しつつ独自の地観を
- 確立 水雲の天師問答と神秘体験を通じた地観の定立過程

リミナリティと境界の超

- 超越 超越内在の境界を超える「リミナリティ」の拡張
- 天地鬼神(天地鬼神)の霊的相互作用と全一的世界観
- 無為而化(無爲而化)を通じた造化(造化)の具現

自生的近代性の特徴

- 修行中心の実践的志向と民衆の平等な参与
- 核心概念東学の造化定地観は天地鬼神の二元的対立を超越するリミナリティを通じて相生的秩序を具現し、これは西欧と異なる自生的近代性の核心となる
- 明堂(明堂)の再解釈を通じた風水地理的伝統の継承 相生(相生)と解冤(解冤)に基づく造化定(造化定)の志向



結論および意義

東西地観の差異と衝突

- 西洋:質料的(実体論的)地観—支配と征服の対象
- 東洋:凝縮的(属性中心)地観—相生と調和の関係
- マテオ・リッチ以降、世界観的/物質的衝突と相克化の進行

東学思想の造化定の地観の近代的意義

- 超越的内在の天地観を統合するリミナリティの具現
- 相生と調和中心の鬼神輪的天地関係の確立
- 修行・日常の統合と平等思想としての近代的地観の提示

研究の寄与と後続課題

● 研究の核心:東アジア自生的思想の再発見

- 地観を批判的に総合し天地鬼神の調和を追求することによって、自生的で代案的な近代性の思想的基盤を提示している。
生態環境の危機の時代の代替的天地関係の模索に寄与

今後、天地関係と近代性への学際的な後続研究が必要

